アブラム
(創世記に登場する「アブラム」:57 聖句、70 か所)

11:26 テラが七十歳になったとき、**アブラム**、ナホル、ハランが生まれた。
11:27 テラの系図は次のとおりである。テラには**アブラム**、ナホル、ハランが生まれた。ハランにはロトが生まれた。
11:29 **アブラム**とナホルはそれぞれ妻をめとった。**アブラム**の妻の名はサライ、ナホルの妻の名はミルカといった。 ミルカはハランの娘である。ハランはミルカとイスカの父であった。
11:31 テラは、息子**アブラム**と、ハランの息子で自分の孫であるロト、および息子**アブラム**の妻で自分の嫁であるサライを連れて、カルデアのウルを出発し、カナン地方に向かった。彼らはハランまで来ると、そこにとどまった。
12:01 主は**アブラム**に言われた。「あなたは生まれ故郷/父の家を離れて/わたしが示す地に行きなさい。
12:04 **アブラム**は、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。**アブラム**は、ハランを出発したとき七十五歳であった。
12:05 **アブラム**は妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向かって出発し、カナン地方に入った。
12:06 **アブラム**はその地を通り、シケムの聖所、モレの樫の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。
12:07 主は**アブラム**に現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」**アブラム**は、彼に現れた主のために、 そこに祭壇を築いた。
12:08 **アブラム**は、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。
12:09 **アブラム**は更に旅を続け、ネゲブ地方へ移った。
12:10 その地方に飢饉があった。**アブラム**は、その地方の飢饉がひどかったので、エジプトに下り、そこに滞在することにした。
12:14 **アブラム**がエジプトに入ると、エジプト人はサライを見て、大変美しいと思った。
12:16 **アブラム**も彼女のゆえに幸いを受け、羊の群れ、牛の群れ、ろば、男女の奴隷、雌ろば、らくだなどを与えられた。
12:17 ところが主は、**アブラム**の妻サライのことで、ファラオと宮廷の人々を恐ろしい病気にかからせた。
12:18 ファラオは**アブラム**を呼び寄せて言った。「あなたはわたしに何ということをしたのか。なぜ、あの婦人は自分の妻だと、言わなかったのか。
12:20 ファラオは家来たちに命じて、**アブラム**を、その妻とすべての持ち物と共に送り出させた。
13:01 **アブラム**は、妻と共に、すべての持ち物を携え、エジプトを出て再びネゲブ地方へ上った。ロトも一緒であった。
13:02 **アブラム**は非常に多くの家畜や金銀を持っていた。
13:05 **アブラム**と共に旅をしていたロトもまた、羊や牛の群れを飼い、たくさんの天幕を持っていた。
13:07 **アブラム**の家畜を飼う者たちと、ロトの家畜を飼う者たちとの間に争いが起きた。そのころ、その地方にはカナン人もペリジ人も住んでいた。
13:08 **アブラム**はロトに言った。「わたしたちは親類どうしだ。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう。
13:12 **アブラム**はカナン地方に住み、ロトは低地の町々に住んだが、彼はソドムまで天幕を移した。
13:14 主は、ロトが別れて行った後、**アブラム**に言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。
13:18 **アブラム**は天幕を移し、ヘブロンにあるマムレの樫の木のところに来て住み、そこに主のために祭壇を築いた。
14:12 ソドムに住んでいた**アブラム**の甥ロトも、財産もろとも連れ去られた。
14:13 逃げ延びた一人の男がヘブライ人**アブラム**のもとに来て、そのことを知らせた。**アブラム**は当時、アモリ人マムレの樫の木の傍らに住んでいた。マムレはエシュコルとアネルの兄弟で、彼らは**アブラム**と同盟を結んでいた。
14:14 **アブラム**は、親族の者が捕虜になったと聞いて、彼の家で生まれた奴隷で、訓練を受けた者三百十八人を召集し、ダンまで追跡した。
14:16 **アブラム**はすべての財産を取り返し、親族のロトとその財産、女たちやそのほかの人々も取り戻

した。
14:17 **アブラム**がケドルラオメルとその味方の王たちを撃ち破って帰って来たとき、ソドムの王はシャベの谷、すなわち王の谷まで彼を出迎えた。
14:19 彼は**アブラム**を祝福して言った。「天地の造り主、いと高き神に/**アブラム**は祝福されますように。
14:20 敵をあなたの手に渡された/いと高き神がたたえられますように。」**アブラム**はすべての物の十分の一を彼に贈った。
14:21 ソドムの王は**アブラム**に、「人はわたしにお返しください。しかし、財産はお取りください」と言ったが、
14:22 **アブラム**はソドムの王に言った。「わたしは、天地の造り主、いと高き神、主に手を上げて誓います。
14:23 あなたの物は、たとえ糸一筋、靴ひも一本でも、決していただきません。『**アブラム**を裕福にしたのは、このわたしだ』と、あなたに言われたくありません。
15:01 これらのことの後で、主の言葉が幻の中で**アブラム**に臨んだ。「恐れるな、**アブラム**よ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」
15:02 **アブラム**は尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」
15:03 **アブラム**は言葉をついだ。「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」
15:06 **アブラム**は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。
15:08 **アブラム**は尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましょうか。」
15:10 **アブラム**はそれらのものをみな持って来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互いに向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。
15:11 禿鷹がこれらの死体をねらって降りて来ると、**アブラム**は追い払った。
15:12 日が沈みかけたころ、**アブラム**は深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。
15:13 主は**アブラム**に言われた。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。
15:18 その日、主は**アブラム**と契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、
16:01 **アブラム**の妻サライには、子供が生まれなかった。彼女には、ハガルというエジプト人の女奴隷がいた。
16:02 サライは**アブラム**に言った。「主はわたしに子供を授けてくださいません。どうぞ、わたしの女奴隷のところに入ってください。わたしは彼女によって、子供を与えられるかもしれません。」**アブラム**は、サライの願いを聞き入れた。
16:03 **アブラム**の妻サライは、エジプト人の女奴隷ハガルを連れて来て、夫**アブラム**の側女とした。**アブラム**がカナン地方に住んでから、十年後のことであった。
16:04 **アブラム**はハガルのところに入り、彼女は身ごもった。ところが、自分が身ごもったのを知ると、彼女は女主人を軽んじた。
16:05 サライは**アブラム**に言った。「わたしが不当な目に遭ったのは、あなたのせいです。女奴隷をあなたのふところに与えたのはわたしなのに、彼女は自分が身ごもったのを知ると、わたしを軽んじるようになりました。主がわたしとあなたとの間を裁かれますように。」
16:06 **アブラム**はサライに答えた。「あなたの女奴隷はあなたのものだ。好きなようにするがいい。」サライは彼女につらく当たったので、彼女はサライのもとから逃げた。
16:15 ハガルは**アブラム**との間に男の子を産んだ。**アブラム**は、ハガルが産んだ男の子をイシュマエルと名付けた。
16:16 ハガルがイシュマエルを産んだとき、**アブラム**は八十六歳であった。
17:01 **アブラム**が九十九歳になったとき、主は**アブラム**に現れて言われた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい。
17:03 **アブラム**はひれ伏した。神は更に、語りかけて言われた。
17:05 あなたは、もはや**アブラム**ではなく、**アブラハム**と名乗りなさい。あなたを多くの国民の父とするからである。

以上の 57 の聖句を参考に、**アブラム**について整理します。

アブラム（後の**アブラハム**）は、テラの子として生まれ、兄弟ナホル、ハランと共に育った。父テラに導かれてカルデアのウルを出立し、ハランにとどまった後、神の明確な召しを受ける。「あなたは生まれ故郷/父の家を離れて/わたしが示す地に行きなさい」（12：1）。七十五歳のとき、彼はその言葉に従い、妻サライ、甥ロト、家財と従者を伴ってカナンへ向かった。シケム、ベテル、ネゲブ、ヘブロンと天幕を移しつつ、その都度祭壇を築き、主の御名を呼ぶ礼拝中心の生活を営んだ。約束の地にあっても土地を所有せず、寄留者として生きる姿は、神の約束に望みを置く巡礼者の姿であった。

しかし彼の歩みは常に揺るぎないものではなかった。飢饉に直面すると、約束の地にとどまらずエジプトへ下る決断をする。さらに自らの命を守るため、サライを「妹」と偽り、結果として彼女をファラオのもとへ差し出す危険にさらした。これは信仰者として重大な弱さであり、恐れが神への信頼を覆った出来事であった。神の介入によってサライは守られ、彼は多くの財産を携えて戻るが、その祝福の背後には彼の不信仰という影があった。

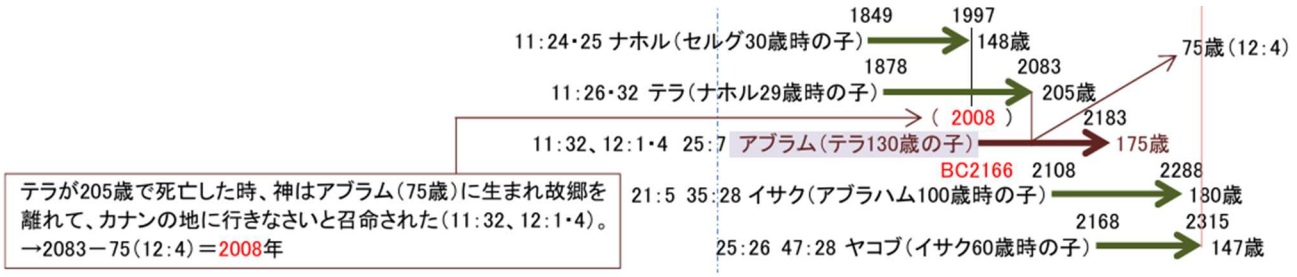
財産の増加はロトとの対立を生むが、**アブラム**は争いを避け、年長者でありながらロトに土地の選択権を譲る寛大さを示す。ロトが肥沃な低地、ついにはソドムへと移る一方、**アブラム**は山地にとどまる。やがてロトが戦乱で捕らえられると、**アブラム**は家で生まれた三百十八人を率いて遠くダンまで追撃し、これを救出する。彼は勇敢で責任感ある族長であった。勝利後、ソドムの王の申し出を拒み、「天地の造り主、いと高き神」に誓って、糸一筋も受け取らない（14：23）と宣言する姿は、富の源が神であるとの信仰告白である。

それでも彼の内面には葛藤があった。最大の悩みは子が与えられないことである。神は「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう」（15：1）と語るが、彼は率直に「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです」（15：2）と訴える。家の僕エリエゼルが後継になるのではないかと考え、約束の実現に疑問を抱く。しかし聖書は「**アブラム**は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」（15：6）と記す。彼の義は行為の完全さではなく、神への信頼に基づいていた。

だがその信頼も試練の中で揺れる。サライの提案を受け入れ、女奴隷ハガルによって子を得ようとしたことは、人間的解決策への依存を示す出来事であった。ハガルが身ごもると家庭内に対立が生じ、サライは苦しみ、ハガルは逃亡する。**アブラム**は決断をサライに委ね、主体的に問題を解決できなかった。八十六歳でイシュマエルを得るが、それは神の約束の成就ではなく、人間的焦りの産物でもあった。

九十九歳のとき、主は**アブラム**に現れて言われた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい」（17：1）と命じ、彼の名を**アブラハム**と改め、多くの国民の父（17：4～6、）とする契約を確認された。ここに至るまでの彼の歩みは、信仰と恐れ、従順と計算、勇気と優柔不断が交錯する現実的な人生である。彼は理想化された英雄ではなく、弱さと失敗を抱えた一人の人間であった。しかしその都度、神の語りかけに応答し続けた点にこそ、彼の真価がある。

アブラムの生き様は、完全さではなく、神との関係の中で成長し続ける歩みである。失敗しても見捨てられず、疑いながらも信じ、恐れながらも従う。そのような人間の現実の中に、神の一方的な恵みと契約の確かさが示されている。彼は弱さを抱えつつも、神の約束に人生を賭けた「国民の父」として記憶されているのである。



NO COPY H.Taniguchi